

## 箴言 31 章

### 31 章の「しっかりした妻」の背景

1,マサの王レムエルが母から受けた戒めのことば。

「マサ」は、「宣告」という意味があるという説、地名という説。

いずれにしても、「レムエル」という王様が母親から受けた訓戒、統治をしていく上、また生活上のアドバイス。ここで、女性「母」から戒めを受けているところが、ポイントかも。

箴言の最初 1 章 8 節だと、「箴 1:8 わが子よ、父の訓戒に聞き従え。母の教えを捨ててはならない。」とあり、締めところで母の教えがでてきているようだ。

2,私の子よ、何を語ろうか。私の胎の子よ、何を語ろうか。私の誓願の子よ、何を語ろうか。

王レムエルに戒めを与えている母は、「私の胎の子」と書かれているので、実母であることがわかる。そして、「私の誓願の子よ」と書かれているので、この母は、息子に対し、誓願を立てたことがわかる。なかなか息子が生まれなくて、請願を立てたのか、それとも息子が王になるというので、特別な請願を立てたのか、いずれにしても神に対して、何らかの誓願を立てたことが分かるし、主にあって教育をしようとしてきたことがわかる。

### 王としてすべきこと(してはいけないこと3つ、すべきこと1つ)

3,あなたの力を、女たちに費やしてはいけない。王を滅ぼす者たちに、歩みを委ねてはいけない。

①「あなたの力を、女たちに費やしてはいけない」

自分のエネルギーを女性に費やす、女性に現を抜かしてはいけない。つまり、夫(あるいは彼氏)が自分にうつつを抜かすような行動をさせるような女性はよくないってことであろう。

②「王を滅ぼす者たちに、歩みを委ねてはいけない」

自分が時間を過ごす相手をきちんと見極めなければいけない。その相手が自分を滅ぼす相手かもしれない。

4,レムエルよ、これは王がすることではない。ぶどう酒を飲むのは王がすることではない。強い酒を飲むのは君主がすることではない。

5,酒を飲んで、定められたことを忘れ、苦しむ者みなへのさばきを曲げるといけないから。

6,強い酒は滅びようとしている者に、ぶどう酒は心の痛んでいる者に与えなさい。

7,その人は飲んで自分の貧しさを忘れ、もう自分の労苦を思い出すことはない。

③「ぶどう酒」「強い酒」「酒」と酒全般に対し、禁酒を勧めている。

ぶどう酒も強い酒も王が飲むべきものではないと。

その理由として、「定められたことを忘れ」「苦しむ者みなへのさばきを曲げるといけない」とある。酒は判断力を鈍らせるものであり、王が覚えておくべき法律を忘れてしまったり、統治をする際に、正しい判断ができなくなるものとしてとらえられている。また、酒は「心の痛んでいる者」が「自分の貧しさを忘れ、もう自分の労苦を思い出すことはない」ためのものとみなされている。

8,口のきけない人のために、口を開きなさい。すべての不幸な人の訴えのために。

9,口を開いて、正しくさばき、苦しむ人や貧しい人のためにさばきを行いなさい。

「不幸な人」「苦しむ人」「貧しい人」に対し、王は正しい裁きをすべきであると訴える。

### しっかりした妻(本題に入る)

10,しっかりした妻をだれが見つけられるだろう。彼女の値打ちは真珠よりもはるかに尊い。

「しっかりした妻」は「たくましい」という訳もあるようだ。たしかに、読み進めるとたくましい女性像が浮かび上がる。なかなか見つからない、ということは、現実的にはかなりの狭き門であることが分かる。そして、もし「しっかりした妻」なのであれば、非常に貴重だと想像がつく。真珠は非常に貴重であった。入手が難しく、値段が高かったであろう。

参考)「箴 12:4 しっかりした妻は夫の冠。恥をもたらす妻は、夫の骨の中の腐れのようだ。」

### 夫の助け手となる妻

11,夫の心は彼女を信頼し、彼は収益に欠けることがない。

今日妻を信頼している夫はどのくらいいるのであろうか。「夫の心は彼女を信頼し」とかかっている。心から信頼されている妻は幸せだろうし、心から信頼できる妻を持っている夫も幸せであろう。

「収益に欠けることがない」。「収益」は、「分捕り物」というのが直訳だそう。しっかりした妻を持つ夫は、経済的に恵まれている、「欠けることがない」というのは、必要が満たされているということであろう。

12,彼女はその一生の間、夫に良いことをし、悪いことをしない。

「一生の間」というのは、長い間であるし、ずっとということ。結婚生活の始めから終わりまで、悪いことを一つもせず、良いことをし続けるのは、すごいことだ。

### 勤勉でしっかり者の妻

13,羊毛や亜麻を手に入れ、喜んで自分の手でそれを仕上げる。

「羊毛」「亜麻」は生地での材料で、生地からいろいろな物を作ることができる。それを人にさせるのではなく、「自分の手でそれを仕上げる」しかも、それを「喜んで」することが

できる人。

14.商人の船のように、遠い所から食糧を運んで来る。

「商人の船のように」というのは、面白い例えだ。遠くから運ばれると、次に書かれているけれど、ラクダではなく「商人の船」となると、量もかなり多いというイメージ。「遠い所から」ということは、そこら辺にあるありきたりの物ではなく、貴重なものや珍しいもの手に入りにくい物も食卓にもぼるということ。また近場が飢饉の時でも、食糧を確保しているという意味かもしれない。

15.夜明け前に起きて、家の者に食事を整え、召使いの女たちに用事を言いつける。

「夜明け前に起きて」とは、かなり勤勉な女性だ。家族の朝ごはんの用意をし、召使の女を切り盛りしている。リーダーシップが発揮できる女性でもある。

16.よく調べて畑を手に入れ、自分の稼ぎでぶどう畑を作り、

「よく調べて畑を手に入れ」商才がある女性。適当にではなく、「よく調べて」仕事を行うことができる。夫の稼ぎではなく、「自分の稼ぎでぶどう畑を作」ることができる女性だ。

17.腰に力強く帯を締め、腕に力を入れる。

すこぶるエネルギー。創世記でも、リベカなど羊飼いをされていて、ラクダの水を汲めるような女性もいたようなので、そのような感じかな？ルツ記のルツも働きものだった。

18.収入が良いのを味わい、そのともしびは夜になっても消えない。

ここまで働きものなので、収入もしっかりあって、それを楽しむことができ、夜暗い生活ではなく、明かりがともる生活ができる。夜も作業ができたであろうし。

19.糸取り棒に手を伸ばし、手に糸巻きをつかむ。

暇があれば、せっせと仕事をしているイメージ。機織りをしているのであろう。

家族にもそうでない人にも優しさと配慮のある妻

20.苦しむ人に手を差し出し、貧しい人に手を差し伸べる。

単純なバリバリキャリアウーマンではなくて、もうけを自分だけ(家族だけ)で楽しむのではなくて、きちんと苦しい人貧しい人を助ける優しさやいたわりの心がある。

21.家の者のために雪を恐れることはない。家の者はみな、紅の衣服で身を包んでいるから。

「紅の衣服」とは、「合わせの着物」と訳すことができるようなので、家にいる者たちは寒い思いをすることがないので、雪が降ってもへっちゃらなので、「雪を恐れることはない」わけだ。前もって準備し、家族の安寧を確保できる女性。

夫や自分にもしっかりご褒美

22.自分のための敷き物を作り、衣服は亜麻布と紫の撚り糸でできている。

「敷き物」は、カーペットのことだろうか？当時床が土だったりしたかもしれないし、せいぜい板張りだったのであれば、敷物は貴重だったろう。それを自分で作れる人。そして、「亜麻布」や「紫の撚り糸」は、かなり高価な繊維だ。しっかり、自分にもご褒美を与えている、勤労の実を楽しむことも忘れていない。

23,夫は町囲みの中で人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。

この女性の夫は有力者で、役人のような存在のようだ。ボアズみたいな人だろう。夫がそのような仕事をするのを妻は支えることができている「あげまん」。

24,彼女は亜麻布の衣服を作って売り、また、帯を作って商人に渡す。

農業だけでなく、加工業、販売業もやってのける、多角経営ができる人。

### 神を恐れる女性

25,力と気品をまとい、ほほえみながら後の日を待つ。

商才があるだけでなく、力も品位もある。「ほほえみ」からは余裕を感じる。こんなに働いていても、あせったり、あくせく働いたりしているように見えない。

「後の日」は、主が戻られ、審判をされる時だろうから、しっかりと信仰をもち、天のことを思いつつ日々を過ごさせているのであろう。

26,知恵をもって口を開き、その舌には恵みのおしえがある。

神からの知恵、神からの恵みであらう。神のことを教えることができる人。もしかしたら、これを語っている「レムエルの母」もこのような人だったのかもしれない。

27,家の者の様子をよく見守り、怠惰のパンを食べない。

ここまでできる人なら、27 節は当然ですね。

### 結論？

28,その子たちは立ち上がって彼女をたたえ、夫も彼女をほめたたえて言う。

29,「力ある働きをする女は多いが、あなたは、そのすべてにまさっている」と。

子どもたちや夫からの尊敬を受けることができる人。そして、一番素晴らしいと言ってもらっている。十分な愛を家族から受けることができている人だ。

30,麗しきは偽り。美しさは空しい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。

レムエルの母の結論かも。そして、箴言全体の結論かもしれない。

見た目の美しさを追及しても、だめだよ。「主を恐れる女」を求めなさいねってこと。

「主を恐れる女」だからこそ、上に書かれていることができるとも言える。

31,彼女の手が稼いだ実を彼女に与え、そのわざを町囲みの中でほめたたえよ。

この女性が、神からの報酬を受け取ることができ、人々からの称賛も受けることができるようにと締めくくっている。